

読み上げペン サトシくん 活用事例集

絵本を使用したことばの学習



活用者

肢体不自由特別支援学校 小学部 4 年生
語彙の獲得や発語に意欲的だが、読みの困難さと発音の不明瞭さがある。

目的

自立活動の授業で、主体的に絵本読みを楽しめるようにするとともに、読み上げられた音声に合わせて自分からも発語することをねらいとした。

内容

ことば遊びのように歌って楽しめる絵本「あっちゃんあがつく たべものあいうえお」を使って、各ページに読み(歌)を登録したサトシくんのシールを貼っておき、ペンでタッチして読み上げる。

結果

ペンでシールにタッチする自身の操作で歌が読み上げられるので、ことば遊びを楽しみながら意欲的に活動できた。
また、再生された音声をまねて、自分からもたくさん発語していた。

(「VOCA-PEN」は、前のバージョンである「読み上げペン サトシくん」の下記の活用事例と、同様の活用ができます。)

交流学习での自己紹介



活用者

知的障害特別支援学校 9 歳 自閉症
発語はあるものの相手に伝える方法や内容がわからない。

目的

交流学习(小学校)の友達に向けて、自分の名前や好きなものを伝えられることをねらいとした。

内容

写真と文字の自己紹介シートにサトシくんのシールを貼って、自己紹介の場面で使用する。

結果

これまでは教師が自己紹介を指さしながら一緒に読んでいたが、自分でサトシくんを使い相手に伝えることができた。
自己紹介の機会が少なく、使いこなすところまでにはいたらなかった。

話型シートを使った発表



が おおい です

活用者

知的障害特別支援学校 10歳 自閉症
発語はあるものの場に応じて使うことが難しい。

目的

ことば・かずの授業で、友達や教師に向けて、自分がやった課題の結果を「〇〇が多いです」「〇〇さん、どうですか？」と伝えられることをねらいとした。

内容

空白の話型シートと選択肢のシンボルにサトシくんのシールを貼って発表する。

結果

友達に向けて発表することができるようになった。
また、「〇〇さん、どうですか？」と友達や教師に評価を求める様子も見られるようになった。

授業での司会進行



活用者

知的障害特別支援学校 12歳(小学部6年生) ダウン症・構音障害
発音が不明瞭のため、言いたいことがうまく伝わらない。

目的

ことば・かずの授業での司会進行を自分でできることをねらいとした。

内容

めくり式の司会カードとサトシくんのシールが貼られたシートを使って司会進行を行い、友達に次にする活動を伝える。

結果

これまで使っていた VOCA に比べると簡単に設定でき、語彙数(シールの数)に制限が少ないので活用機会が広がった。

朝の会の司会進行



活用者

知的障害特別支援学校
18歳(高等部3年生)
「あー」「うー」などのことばでコミュニケーションを取っている。朝の会で、みんなが使っている進行表を使って会を進めたいが、ことばが出ないので思うように司会ができない。VOCAを用いたが、進行表にこだわり、効果がなかった。

目的

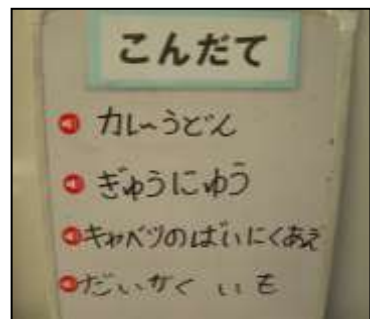
朝の会で、みんなが使う進行表に従って、会を一人で進めることができる。
(自信を持って！)

内容

朝の会の進行表や献立、時間割などにサトシくんのシールを貼り、録音されたことばを使って一人で朝の会を進める。

結果

導入前は教師に頼ることが多く、教師と一緒に声を出していたが、導入後はサトシくんを使って自信を持って朝の会を一人で進めることができるようになった。



スケジュールの確認

活用者

肢体不自由特別支援学校 小学部6年生
重複カリキュラム学級
自立活動を主とする教育課程に在籍し、重度の知的障害を併せ有する肢体不自由児。
予定や見通しを伝える際に、絵カードという視覚情報では有効ではないため、次の予定はその予定に関係する自然な出来事やそれに関する具体物、音楽などで理解している。

目的

手順カードや時間割カードは、複数のカリキュラムで構成されている学級のため(知的障害特別支援学校に準ずる教育課程の子どもたちのため)に必要なが、自立活動を主とする子どもたちには実態に合わない。
そのため、聴覚情報として今日の時間割を確認するようにしている。

内容

① 一時間目 朝の会の時間割カードにシールを貼り付けて(毎日)
② 自立活動 体を動かさず手順カードにシールを貼り付けて(期間限定)
朝の会を一時間目に行なっているが、対象としている児童2名は、登校後医療的なケアを受けるために他の教室に行く必要がある。医療的なケアを受けながら、今日の時間割カードと、読み上げペンから再生されるその授業と関係している音声を児童と一緒に確認しながら活動している。
その後、教室に戻り、朝の会では確認していたときに一番反応が良かったものについて、友達の前で発表する。

結果

活動時間ごとに、歌を設定したり(しているものもあったが、ないものもあった)、その時々である季節や行事と関連した授業でも歌を準備したりと、時間割作成以外の部分で、学級内で話し合いながら進めていくことができた。
一時間しかないような授業や行事もあり、録音のし直しが、手順を間違ったりしてしまって、時間がかかっている。



遊びの指導



活用者

知的障害特別支援学校
小学部 3 年生 3 名(自閉症・ダウン症・広汎性) 小学部 4 年生 1 名(自閉症)

目的

児童だけでゲームができるように、音楽再生をサトシくんで行う。CD 操作が難しい児童にも出題者ができるようにしたい。

内容

遊びの指導(イントロクイズをしよう)
1 人が出題者、残りの児童が曲を聞いて曲のイラストのパズルピースを探して全員で合わせて完成させるゲームをする。

結果

パズルだけを楽しむのではなく、出題者もやりたがる児童が多かった。また、カード 1 枚に対して 1 曲を録音することで、出題者が曲を選択することができるようになったり、ゲームの終わりもわかりやすかったりした。
児童にとっては魔法のペンだったようである。日ごろは、CD を勝手に触って叱られていたが、適切な方法で自分の好きな曲を再生することができ、満足そうだった。

芸術作品の展示

活用者

肢体不自由特別支援学校 13 歳(中学部 1 年生) 脳性まひ
四肢が不自由であり、細かい文字や図柄を見るのが苦手である。

目的・内容

校内の廊下の壁面に、児童生徒の芸術作品を月替わりで展示するギャラリーを設置している。展示が図画工作・美術の作品に偏りがちであるため、音楽の学習・活動(歌唱・器楽・身体表現などの授業の様子)を録音して、写真とともに展示していきたい。また、図画工作・美術の作品の場合には、その作品紹介を音声で録音しておき、紹介できるようにしていきたい。

結果

本校の児童生徒には、サトシくんのような読み上げペンは教育的効果が高いことがわかった。文字が読める児童生徒ばかりではないので、作品の音声での紹介は好評だった。また、音楽の展示もギャラリーのバリエーションを広げることができた良い取り組みになった。
壁面での展示のため制約が多く、今後の課題となった。

コミュニケーション

活用者

知的障害特別支援学校 18 歳 知的障害
発語がなく、独自のジェスチャーで「何か」を伝えようとしているが、そのジェスチャーが何を意味しているのか、普段から接している人でもわかりにくい。



エピソード

- ① 給食時間に、生徒(サトシくん使って)「牛乳ください」 → 教師「はい、牛乳どうぞ」
→ 生徒 笑いながら『いらない』と手を振る → 教師「じゃあ言うな(笑)」
→ 周りこいたみんなが笑う。 実際に会話をしているようだった。
- ② 給食時間の終わりごろ、教師に促されていない中で、自分でゴソゴソとサトシくんを取り出し、「ごちそうさまでした」の号令をかけるなど、主体的な行動が増えた。
- ③ おやつと関係のない時間や余暇ができない時間にも、「〇〇たべたい」「〇〇やりたい」などの要求があり、「今の気持ち」「今、思っていること」を知ることができた。

結果

要求の仕方が独自のジェスチャーからサトシくんになったことで、「伝えたいこと」が誰にでも伝わるようになった。